
大相撲物語 2 0 0 文字集

河 美子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

大相撲物語200文字集

【Nコード】

N5380K

【作者名】

河 美子

【あらすじ】

大相撲物語をまとめました。

第1話

こんなに、鉄砲をやってもなぜかいつも緊張して手が出なくなる。鼻からこけて、昨日は笑われた。

相撲取りになって13年、後から入った奴がどんどん関取になっていく。

指をくわえて見送ってきたわけじゃない。

練習だって人一倍やってる。

だが、土俵に上がると右手と右足が一緒に動くようになって、親方にはみつともないっていわれた。

自分でも情けない。

今日こそはがんばりたい。

でも親方、この虹色の回しが派手すぎな気がします。

第2話

はたきこみーされちゃった。

今日も黒星。

はあ、向いてないのよ、相撲は。言っただけでしょう、無理って。

頑張っても無理だって。

だって、僕はロン毛で、体がでかいというだけでスカウトされたんだから。

スカウトっていうから芸能界って思ったのに、来たのは両国ってどうよ。

もうちゃんこ鍋も嫌いなんだって。

僕は朝は卵トーストとカフェオーレでいいのに。

おかげで60キロだったのに、今じゃ110キロ。
ロン毛もまげになっちゃった。

第3話

「親方、友達が入門したいって」

「そうか、体はでかいのか」

「はい、180センチ、130キロです」

「ほう、いいじゃないか」

「サッカーをやっていたので、フットワークもいいですし、手が速く一撃で鼻も折ります」

「それはいいなあ。張り手が強いんだな。よその部屋に言っていないだろうな」

「はい、親方だけです」

「ちよつと会ってみようか」

待ち合わせ場所に現れたのは、朝○龍。

「もう少し稼ぎたいので、四股名はファン太郎で」

第4話

ふーっ、暑いのに、何でこんな作業しなくちゃいけないんだよ。
色紙を200枚渡されて、朝からペタペタ手形作り。はあっ、もうちよつと生産的な仕事ってないのかよ。いい大人がスタンプ遊びみたいなことつまんねえよ。

「横綱、もうあと少しですから」

「へいへいほー」

「これは伝統的な相撲土産ですから」

「へいへいほー」

「もう少ししたらテレビ局が来ます」

「へいへいほー」

「失礼します」

「不惜身命で手形を作ってるところです」

第5話

「肩が凝ってしょうがねえや」

「この辺りですかい、横綱」

「そこ、そこだよ、うまくなったじゃねえか」

「へえ、おかげさんで」

「ところで、この頃ずいぶんと周りがうるさいから、もっと注意しとけよ」

「あい、どうもこうも最近のマスコミはしつこくていけません」

「ちつ、俺がいないとこの部屋も金がねえんだから、もうちつと気を配れよ」

「あい、重々分かってます」

「今日は外で飲んでくるから」

「いつてらっしゃい」

「じゃ親方」

第6話

「床山さん、今日は顔色がすげないねえ」

「ああ、ちよつとね」

「なんか悩みでもあるのかい」

「いや、私も大相撲の世界で長く生きてきました。でも、いくら長いからって出来ることとできないことがあります」

「そりゃあそうだ」

「今日も関取にちゃちゃつとやってくれって言われたんです」

「ふんふん」

「でも、天辺に鬚を結う髪が無いから、侍姿にしたんです」

「へっ？」

「土俵で笑われて勝つなんてダメって、相撲協会に叱られて」

第7話

親方に稽古をつけてもらう。

右へ左へと転がされて、転び方も覚えていく。そうしないと、大けがにつながるからな。

若い親方にとって、私は初めての力士。

股割もできるようになってきた。

ちゃんこで体も10キロ増えた。

鬚もしっかり大銀杏にできた。

今日はいよいよ初土俵。

新しいエメラルドグリーンの廻しはピシッとしてまって見えてカッコいい。

だが、ヤンキー上がりのおかみさん、力士の爪をネイルアートっ
て思わず手足が縮こまる。

第8話

化粧回しは憧れだ。

費用は安くても150万。

どこにそんな金がある。

親方もまだ若く年寄株を借りている。

田舎で後援会を作ってもらっても過疎の村だから

両親入れて15人しかない。

しかも年金生活者と、老人ホームにいる人ばかり。

だけど、やっと来たんだ、有名企業が。

「うちに応援させてください。ただし商品名が入ります」

「構いませんとも。是非是非お願いします」

できました。立派な金系銀系で。

でも、おむつのアデントか。

第9話

突き倒しても手を差し伸べる、横綱の品格。

ガッツポーズ、とんでもありません。

居酒屋に行っても、喧嘩もしません。
弟子にはこれとつとけよと小遣いも渡します。
おかみさんにも必ず母の日にプレゼント。
親方の影も踏んだことありません。
横綱審議会の皆さんの総見では、最初から最後まで試合をします。
やくみつるさんのサイン会では、一番乗りで握手をします。
そんなに頑張ってきたのに、引退ですって？
ストレス性円形脱毛症って。

第10話

今日は田舎から母ちゃんが来る。
頑張っでもうしても勝ちたい。
思い起こせばこの世界に入ってから、ひたすら稽古ばかり。
田舎に帰ることなどもなかった。
随分とやんちゃなことばかりしてきたが
今日はカッコいいところを見せたい。
あと4番で俺の相撲が始まるのに、まだ来ない。
どうしたんだろう、家はとっくに出たらしい。
来た来た。
豹柄のセーターに黒のスパッツ、金の極太ベルトに紫ヘア。
母ちゃんの廻しも用意してもらいたい。

第11話

ハワイ、モンゴル、エストニア、ブルガリア。
国際色豊かな大相撲です。
今度はいよいよアフリカからスカウトされました。
縮毛がきついで、カーリーヘアでしばらくやるしかありません。
困るって言われても髪は力士の命ですから。
鬘が結えるのにはあと二カ月。
今は矢島美容室のようですけど、鬘付けで固めてしまえば出来ま

す。

ただこの美しい黒い肉体が奥様方の目をくぎ付けにしています。
廻しにチップをはさむのは止めてください

第12話

「だから、触らないで。いつも言ってるでしょう。あのときは嫌
だつて」

「いいじゃないか、俺がいいって言っただから」

「いや、絶対にいや」

そう言つと、あいつは背を向けた。怒っている時のいつもの表情。

「ねえ、怒ってる？」

「いい、そんなことより飯作れよ」

「何で命令するのよ」

「腹減ったから」

冷えた尻が痔に悪い。薬をつけるといつもこのセリフを言っただ
から。

「おい、女言葉使つなよ。やりにくいだろう。廻しつけるとき」

（後書き）

続きは続大相撲物語です。どうぞお楽しみください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5380k/>

大相撲物語 200文字集

2010年10月8日14時26分発行